

執筆者一覧 (氏名は各巻の掲載順)

【第三巻第二分冊】

文献紹介

---

船木理悠

同志社大学嘱託講師、京都芸術大学(旧京都造形芸術大学)非常勤講師

同志社大学大学院文学研究科美学芸術学専攻博士後期課程 修了、博士(芸術学)

主要業績

- ・「エルネスト・アンセルメの音楽美学における解釈と身体——現象学的身体論としてのアンセルメの音楽美学——」、『音楽学』第63巻1号、2017年
- ・「音響のテンポと脈拍のテンポ——ジゼル・ブルレとフーゴー・リーマン——」、岡林洋・清瀬みさを(編著)『カルチャー・ミックスII』晃洋書房、2018年
- ・「ジゼル・ブルレの『音楽的時間』における「音楽形式」について——記憶と期待の観点からの解釈——」、『美学』第70巻1号、2019年

【第四巻】

論文

---

外山悠

同志社大学大学院文学研究科美学芸術学専攻 博士後期課程 在学中

主要業績

- ・「斎藤百合子『日常性の美学』における「道徳的美的判断」に関する一考察——フランシス・ハチスン『美と徳の観念の起原』を比較の対象として——」、『美学芸術学』第32号、2017年
- ・「斎藤百合子による「日常美学」と「をかし」の美学」、斎藤百合子『日常美学』の概要紹介、『エコ美学&科学国際研究センター 2017年度 研究成果報告集』、2018年
- ・「斎藤百合子による「日常性の美学」と「をかし」の美学」、岡林洋・清瀬みさを(編著)『カルチャー・ミックスII』、晃洋書房、2018年
- ・「もう一つの“Aesthetic Turn”：「日常」と「美学」を繋ぐものを求めて」、『社会科学』第49巻第4号、2020年

書評論文

---

田邊健太郎

立命館大学授業担当講師、尚美学園大学非常勤講師

立命館大学先端総合学術研究科修了、博士(学術)

主要業績

- ・「分析美学における音楽の存在論は何をどのように論じているのか」、『ポピュラー音楽研究』第21号、2018年
- ・「ロジャー・スクルトンの音楽知覚論——アコースマティック、美的理解、想像的知覚」、『音楽表現学』第16号、2018年
- ・「「あいだ」と「演奏的受動性」——演奏の哲学的分析」、『日本哲学史研究』第16号、2019年